

伝統的工芸品

逸品カタログ



2014 年 8 月

一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会

申込みをする前にお読みください

- **カタログ掲載商品は青山スクエア展示商品、またはお取り寄せなどによる注文商品の一部です。**まずは青山スクエアにお問い合わせください。

※ 商品番号の前についている記号は価格帯を示すものです。下記をご参照ください。

記号	価格帯
A	1,000,000 円～
B	500,000 円～1,000,000 円
C	200,000 円～500,000 円
D	100,000 円～200,000 円

●お申し込み方法

お申し込みはお電話、FAX、E-mail で受付けます。

添付の注文用紙をご利用下さい。お電話での注文の場合は、注文内容を記載した用紙を FAX または E-mail で返送いたします。

伝統工芸 青山スクエア（一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会）

【電話】 03-5785-1301（11:00～19:00 年中無休）

【FAX】 03-5785-1302

【E-mail】 tomo@kougei.or.jp

●お支払方法

- ① 現金
- ② クレジット
- ③ 銀行振り込み

●商品の受け取り方法

原則として店頭にて商品をご確認後、お渡しとなります。

但し、必要に応じて国内配送を受付けます。海外への配送は致しかねます。

A01

香川漆器(香川県)

チェスト あざみ三

1,134,000 円

幅 78.5cm 奥行 38cm 高さ 88.2cm

漆の塗り技法を彩りに葉簞笥のイメージでデザインしたもの。本体は櫟材の摺り漆仕上げ、引出しは指定技法の彫漆、存清、後藤塗、象谷、蒟醬はもとより、黒漆、朱漆、シボリ漆、クシ目塗、根来塗、刷毛目塗、砂子塗、平目時、布目塗、弁柄朱の 15 種類の塗り技法で仕上げてあります。漆のさまざまな表現を展開し、新しい塗の世界を創造した作品です。



<>

A02

輪島塗(石川県)

硯箱 鳳凰 中板硯水滴付

1,080,000 円

横 21.5cm 縦 27.5cm 高さ 4cm

古代中国では、鳳凰は麒麟などとともに四霊とよばれる想像上の動物で、喜ばしいことがあると出現する瑞鳥とされていきました。徳の高い君子が帝の位につくときに宮廷に飛来するといわれます。吉祥を言祝ぐように一面に高蒔絵で鳳凰が描かれ、内側は鳳凰がとまるとされる桐の模様を描いた格調高い硯箱です。



<>

A03

輪島塗(石川県)

宝石箱

1,080,000 円

横 18.5cm 縦 11.5cm 高さ 17.5cm

手提げ菓子器を見本に、左右に開く宝石箱を創りました。輪島塗ならではの堅牢な塗りは、漆本来の赤と黒を基調とした色合い。珊瑚や天然石、螺鈿をちりばめた上品な蒔絵で女性の持ち物にふさわしい優しさを表しています。お気に入りの宝飾品を入れて使うもよし、オブジェとして飾るもよし。それ自体が宝石のような箱です。



<>

A04

岩谷堂筆筥(岩手県)

舟筆筥

1,069,200 円

幅 40cm 奥行 40cm 高さ 51cm

舟筆筥の中でも懸硯といわれる一種の手提金庫。船頭が所持し、船鑑札や往来手形、現金、印など運行と商売に必要な文書類を入れていました。片開扉を開けると中は抽斗が上二段、下左右二杯忍び付。外箱・抽斗とも樺材の木地呂仕上げ、金具は銅の手打ち、扉正面の錠前を守るように龍が取り巻いています。



<>

A05

東京銀器(東京都)

銀湯沸し 4 寸

1,026,000 円

12.3cm 角 高さ 20.4cm (注口含め幅 14.8cm)

河内光明氏は東京銀器を代表する鍛金の伝統工芸士の一人です。地金の銀を金槌で鍛えながら手作業で成形する作業は修練と緊張を要する仕事ですが、なかでも伝統的な茶道具の湯沸しや急須は定評があります。何代にもわたって伝えていきたい端正な純銀の湯沸し、用の美の極致と言えます。



<8100860400995>

A06

岩谷堂筆筥(岩手県)

車付筆筥

1,020,600 円

幅 64cm 奥行 36cm 高さ 62cm

民芸愛好家の永遠の憧れ?! 手打ち手彫りの鉄金具をまとった民芸家具です。普及品の鋳物金具との違いは歴然、しかも貴重な樺の無垢材を用いて丁寧に拭き漆を重ねた本格派です。車は飾りではなく、車輪として機能しますので、移動も楽々。近年、和室よりはむしろ洋間のポイント家具として人気があります。



<>

A07

岩谷堂筆筥(岩手県)

門筆筥 (抽斗)

1,004,400 円

幅 50cm 奥行 40cm 高さ 62cm

三杯の抽斗と下段の左右大小の抽斗を押えている門が装飾的効果も発揮しています。樺材の拭き漆仕上げで金具はすべて鉄の手打ち、門があるために抽斗部分が少し奥まった作りが立体感を感じさせます。門の飾り金具は昇り竜。バランスのよい小家具は和洋を問いません。



<>

B01

薩摩焼(鹿児島県)

叩き刷毛目焼締花器「柘榴」

918,000 円

直径 37 cm 高さ 39 cm

薩摩焼の伝統技法「叩き」の現代の名工、西郷隆文氏は西郷隆盛公の曾孫です。アパレル業界から陶芸家へと転身した異色の人材が、理事長として薩摩焼業界を牽引しながら、新風を送り込んでいます。他に例を見ない斬新なこの作品は、白化粧土を刷毛目で仕上げ、鉄ピンで柘榴文様を描き、漆で着色した漆芸と陶芸のコラボレーションによる大作です。



<>

B02

東京銀器(東京都)

花器 変り立筋

864,000 円

直径 約 14cm 高さ 約 19 cm 重さ約 1,525 g

金属工芸の粋ともいえる東京銀器は、江戸時代に発祥。器物、置物、装身具など日常生活のさまざまな分野で、時代にあった製品を生み出してきました。作品展も盛んに行われ、伝統技法を駆使した斬新な造形作品が覇を競っています。小振りながらも存在感溢れる純銀の花器はオブジェとしても名品です。



<>

B03

江戸切子(東京都)

青被風車文花瓶 ルリ

864,000 円

直径 20cm 高さ 28cm

どっしりとした瑠璃色の花瓶に、軽やかな風車文。風車を回すようにつむじ風が渦巻いていますが、この大胆な曲線のカットを刻むには非常に高度な技術が要求されます。上部は伝統柄である菊つなぎの細かな連続模様が施され、胴部の流動感みなぎる文様と好対照をなしています。



<8100873400388>

B04

京石工芸品(京都府)

創作五角置灯呂

810,000 円

径 30cm 高さ 36cm

当代随一の「石大工」は、イサム・ノグチの抽象的な石造美術制作を担った世界的なアーティストでもあります。金造氏の頭の中には、国内はおろか大陸にまでわたって、古今東西の名品のデータベースが構築されているとか。名匠が白石島の錆石と出会って創作した置灯呂、どんな歳月がきざまれていくでしょうか・・・



<8100870300018>

B05

伊万里・有田焼(佐賀県)

色鍋島燕四季文花瓶

810,000 円

直径 25.8cm 高さ 45.1cm

アラベスクのような紋様を巻き、燕を中心に花鳥風月で四季をあらわした大振りの花瓶です。落ち着いた上品なタッチの下絵付けがやや青味を帯びた素地と調和し、色鍋島独特の赤、緑、黄色の上絵と相まって御用窯ならではの品格を漂わせています。瑕疵のない端正な器肌の空間構成が絶妙な効果をもたらしています。



<>

B06

香川漆器(香川県)

飾棚 水月

810,000 円

幅 105cm 奥行 40cm 高さ 120cm

香川漆器は様々な技術技法が継承され、製品也多岐にわたっています。国内有数の漆器家具メーカー・森繁による飾り棚。黒い刷毛目漆塗、扉は撫後藤塗を全面に施して呂色仕上げにしてあります。後藤塗は香川漆器の伝統技法の中でも、人気の仕上げですが、職人の指先で模様を付けていく、手仕事の極みともいえる逸品です。



<>

B07

江戸木版画(東京都)

富嶽三十六景

596,160 円

横 48.5cm 縦 33cm (台紙含む)

江戸時代から続く浮世絵版画の彫り、摺りの技法を駆使してすべて手作業によって制作されます。この度の富士山の世界遺産登録にも貢献したといわれる葛飾北斎の富嶽三十六景の復刻。この「神奈川浪裏」は、赤富士、黒富士とともに絶大な人気を誇っていますが、全46図、特製布装帙箱入、解説書付のセットです。



<>

B08

九谷焼(石川県)

花生 古九谷風 華鳥

540,000 円

直径 26cm 高さ 28cm

二代浅蔵五十吉氏に師事、日展や現代工芸展で活躍する中村重人氏の重厚な古九谷風の作品です。緑釉の唐草の地紋に木瓜型の間取を配し、枠一杯に自由闊達に草木が描かれていますが、緑、黄、紫、紺青、赤の九谷五彩で彩られた花鳥図は古雅な趣きを湛えています。



<>

B09

輪島塗(石川県)

硯箱 秋草 中板硯付

540,000 円

横 21.5cm 高さ 27.5cm 高さ 4cm

大名道具の気品を漂わせる古典的な硯箱。中板付で硯にも金をあしらっています。かつては文庫と揃いにして書院を飾った優雅な秋草文様は、違い棚や、文机など書院に置かれることが相応しい気がしますが、現代の無機質の空間にあっても、十分に存在感を発揮して幽玄な雰囲気を出してくれます。



<>

B10

伊万里・有田焼(佐賀県)

色鍋島松竹梅瓶子

540,000 円

直径 20.5cm 高さ 34.5cm

江戸時代の名品色鍋島瓶を現代に甦らせた作品です。雄渾な松を中心に据えて、竹、梅をあしらった大胆な意匠は伝統的な図柄を踏襲。肩が張り、大きく膨らんだ上部、下の方で窄まって底辺部が開いた堂々とした形状に一步もひけを取らない気魄に満ちた絵付けは、活躍めざましい伝統工芸士青木妙子氏の手によるもの。



<>

C01

薩摩焼(鹿児島県)

叩き炭化焼締花器

486,000 円

直径 25 cm 高さ 34cm

薩摩焼は 16 世紀末、薩摩藩主・島津義弘が連れ帰った朝鮮の陶工によって始められました。素朴で剛健な黒薩摩と優美で細やかな貫入が特徴的な白薩摩に大別されます。黒薩摩の伝統工芸士、西郷隆文氏による焼締花器。種子島の能野焼を現代風の美しいフォルムに仕上げた作品は、叩きの技術に裏打ちされた品格が漂っています。



<>

C02

輪島塗(石川県)

文庫 秋草

432,000 円

横 28.5cm 縦 37.5 高さ 7 cm

その堅牢さにおいて、輪島塗の信頼はゆるぎないものがあります。良質の木地を選び、布着せをして補強し、丁寧な下地塗を施し、中塗、上塗と重ねたのち、蒔絵を施しました。長い年月を得て洗練された秋草文様は、わが国の美意識の象徴的な意匠といえます。蓋裏には月と鈴虫が蒔絵で表現されています。



<>

C03

香川漆器(香川県)

座テーブル 風紋(折れ脚)

421,200 円

幅 160cm 奥行 75cm 高さ 70cm

平成 24 年度全国漆器展において、経済産業大臣賞を受賞した作品です。香川漆器の伝統技法の後藤塗をシンプルなフォルムに取り入れ、新しい和のスタイルを提案したもの。折れ脚の金具をたたんで、大きな盤としても使えますので、車座のうち解けた寄合などにも活躍しそうです。



<>

C04

香川漆器(香川県)

キャビネット 荻33

410,400 円

幅 93cm 奥行 40cm 高さ 111cm

指定技法の象谷塗のモダンなイメージをいかして簡素な筋目象谷で仕上げ、新しい和風を表現した製品。象谷塗に用いられるマコモ粉のマットな質感が、スタイリッシュな中に侘びた風情を醸し出しています。洋間にも和室にもしっくり収まる魅力的な家具です。



<>

C05

薩摩焼(鹿児島県)

蛇蝎釉茶盃

291,600 円

直径 12cm 高さ 8cm

作者は黒薩摩の名窯、長太郎焼本窯で修業を積んだ職人であり、陶芸の可能性に挑むアーティストでもあります。薩摩焼独特の蛇蝎釉に現代感覚を盛り込んで、白さを強調した個性的な茶盃。蛇蝎釉は蛇のうろこを連想させる立体感が特徴です。日展を中心に活躍する氏は、その造形感覚、斬新な色づかいなどで世界的な注目を浴びています。



<>

C06

波佐見焼(長崎県)

青白磁壺

270,000 円

直径 18cm 高さ 21cm

江戸時代、日本の食文化の発展に大きな影響を与えた「くらわんか碗」。手頃で良質な日用食器作りの伝統を受け継ぐ一大産地はまた、多くの名工を輩出しています。轆轤技術を極めた山口正美氏の壺。「白磁の深遠な美を訴求し、屈託を感じさせない美しい器胎を造形したい」と語る氏の玲瓏玉のごとき作品です。



<>

C07

村上木彫堆朱(新潟県)

硯箱 金磨塗 菊

270,000 円

横 19.5cm 縦 25.5cm 高さ 5cm

村上木彫堆朱は、15 世紀の初めに、京都の漆職人が伝えたのが始まりとされます。この金磨塗は堆朱と同様に、木地に直接下絵を描いて彫刻を施し、漆を塗布し、金箔を貼り、漆を塗り重ねて研ぎ出し、再び細かい部分を毛彫りして仕上げます。落ち着いた肌合いと文人好みの意匠、使い込む程に味わいを増します。



<>

C08

九谷焼(石川県)

花瓶 木洩れ日

259,200 円

直径 16cm 高さ 24cm

九谷焼は、成形と上絵を中心とする絵付の分業が徹底しています。中でも、上絵は人間国宝をはじめ錚々たる作家を輩出していますが、高氏も金襴手や花詰など様々な技巧を誇る重鎮です。「木洩れ日」は木々の葉陰に憩う鳥の囀りが聞こえてきそうな優しい作品、薄緑の柔らかな光が心を鎮めてくれます。



<8100830501899>

C09

京焼・清水焼(京都府)

茶盃 紫交趾 五節句

248,400 円

直径 12.5cm 高さ 8cm

茶道の世界に「交趾焼の翠嵐」として名を馳せる京焼の名匠、中村翠嵐氏の茶盃です。独特の高貴な紫交趾に、切紙紋を配し、五節句の草花を金銀彩で描いた極めて格調高い作品。華やかで優美な意匠は茶人のみならず、日本文化に造詣の深い外国人の目を魅了しています。



<>

C10

九谷焼(石川県)

台鉢 赤絵唐子遊文

216,000 円

直径 22cm 高さ 5.5cm

明治から昭和初期にかけて隆盛を誇った細描赤絵は、一時凋落傾向にありましたが、赤絵の本流をひたむきに追及する福島武山氏によって、再び脚光を浴びるようになりました。亀と戯れる唐子のゆかしい情景を描いた台鉢は、高尚な画題と画趣に赤絵細描の無限の奥深さを感じると語る氏の真骨頂ともいえる作品です。



<>

C11

輪島塗(石川県)

文庫 童

216,000 円

横 28.5cm 縦 37.5cm 高さ 7 cm

A4サイズが納められる大きさで、石川県の県木の档の木を用い、堅牢に仕上げました。四季折々の無邪気に遊ぶ童が生き生きと描かれています。冬の凧揚げ、春の桜の花びら、秋の桔梗と季節を問わずお使いいただけますので、贈答に最適の人気商品です。



<>

C12

備前焼(岡山県)

徳利

216,000 円

直径 9cm 高さ 14.5cm

備前焼は六古窯のひとつとして、長い歴史の中でさまざまな製品を産出してきました。中でも徳利は時代を超えて多くの識者に愛され、今も名品が伝えられています。伝世品の多くは、自然でのびやかな姿と使い込まれた美しい肌をしています。日本酒ブーム再来とか。人間国宝伊勢崎淳氏の徳利、晩酌の友にいかがでしょう。



<8100832000949>

C13

伊万里・有田焼(佐賀県)

色鍋島野菜尽文尺皿

216,000 円

直径 30cm 高さ 3cm

古九谷、柿右衛門と並び江戸時代の磁器の精華と謳われた色鍋島の伝統を踏まえた典型的な作品です。皿の曲面に沿って描かれた模様は安定調和の中に動きを感じさせ、独特の色遣いが馥郁たる気品を醸し出しています。代々、御細工場で絵付けを承った虎仙窯ならではの斬新且つ優美な名品です。



<>

C14 伊万里・有田焼(佐賀県)

菊割古伊万里菓子鉢

216,000 円

直径 24cm 高さ 9.3cm

江戸時代、有田で創製された磁器は伊万里港より出荷されて、ヨーロッパの王侯貴族の人気を博しました。特に赤絵物はマイセンはじめ各地の窯に影響を及ぼし、オールドジャパンと称されて今日に至っています。菊割の花弁を有職模様で埋め、見込に龍を描いた古伊万里様式の手描の鉢、格調高い古めかしさが新鮮です。



<>

C15 江戸切子(東京都)

瑠璃籠目花瓶

216,000 円

直径 14cm 高さ 26cm

江戸時代後期、江戸大伝馬町のビードロ屋、加賀屋久兵衛が手掛けた切子細工が今日の江戸切子の始まりと言われています。町民文化の中で育まれた江戸切子は、籠目や矢来、七宝など江戸好みの洒落た意匠や技法を発展させてきました。瑠璃ガラスを被せ、籠目模様を細かく刻んだ花瓶はいかにも涼しげです。



<>

C16 江戸節句人形(東京都)

兜一式 1 / 4 萌黄匂威

200,880 円

本体 幅 18cm 高さ 23cm 台屏風 59cm 35cm 高さ 43センチ

江戸の人形作りは文化文政の頃に最盛期を迎え、五月人形や実物の甲冑をモデルにした精巧な飾の江戸甲冑が確立しました。この飾兜も江戸甲冑の第一人者加藤一冑によって1 / 4 縮尺に再現された逸品。絨には絹糸、鉢は銅合金、和紙、皮革など自然素材が用いられています。弓太刀飾り、屏風と焼桐の台付。



<>

D01

輪島塗(石川県)

花器 鶴首 鶴亀

194,400 円

花器: 直径 8.5cm 高さ 27.9cm

台 1 枚:

幅 6.2cm 長さ 22.6cm 厚み 1.8cm

輪島塗の特長は堅牢な下地にあります。地の粉という珪藻土の焼成粉末を混ぜ込んだ本堅地に丹念な工程を積み上げていく漆工技術は重要無形文化財の指定を受けています。沈金・蒔絵の加飾工程においても幾多の名工が覇を競っています。古典的な鶴亀の花瓶、蒔絵技法を駆使した名品です。



<8100841300702>

D02

備前焼(岡山県)

窯変大皿

183,600 円

直径 40.5cm 高さ 7.5cm

器の形の多様性は和食の魅力を奥深いものにしてくれます。備前の土味が窯変によって表情豊かに顕れた大皿、豪快に海の幸を盛り込んでホームパーティーの主役になりそうです。ケイタリングの立食メニューでも、趣のある器に仕込むと、お抱え料理人が采配をふるったかのような本格的なパーティーを演出できます。



<8100832000604>

D03

越前漆器(福井県)

平棗 柳

151,200 円

直径 8.6cm 高さ 5.8cm

越前漆器の名工、松田眞扶氏の技術の粋を傾けた丹念な作品。びっしりと描かれた柳の枝に風がわたってくるような軽やかさも感じられます。今、世界各地で茶道に注目が集まっているとか。本格的な茶入は垂涎の的、丁寧に使い込まれて艶やかさを増す蒔絵の魅力も伝えたいものです。



<8100842700532>

D04

輪島塗(石川県)

ぐい呑揃 兎沈金

140,400 円

直径 6.7cm 高さ 6cm

ある兎の一家の物語。五客のぐい呑に家族史?!が沈金で描かれています。一面に繁ったススキの中で、月を眺める兎、ある時は孤独に、ある時は家族をなして、なぜか仔兎だけが3羽…漆黒の漆と金が、引き込まれるような月夜の情景を効果的にあらわした人気商品です。



<>

D05

九谷焼(石川県)

赤絵フリーカップ

129,600 円

直径 7.5cm 高さ 12cm

赤絵細描の第一人者、福島武山氏の酒杯。青海波や七宝つなぎなどの小紋柄を帯状に連ね、上部には流麗な鳳凰紋を配しました。1mmの幅に7本の線を引くという超絶技巧。扱い難い赤絵具を駆使して、赤1色で奥行きのある空間を表現しています。杯を傾けながら、日本のデザインの歴史に思いを馳せてみるのも一興です。



<8100830501813>

D06

九谷焼(石川県)

四方花器 「木蓮文」

129,600 円

13.8cm 角 高さ 32.4cm

九谷焼の魅力は色絵の多彩さにあります。やや青味を帯びた素地に、緑、黄、赤、紫、紺青の五彩の和絵具の重厚な色味が特徴ですが、作者の山田義明氏は中間色を多用して、優美な雰囲気醸し出しています。デッサンの確かさ、見事な空間構成、紫木蓮の上品な色相は氏ならではの新しい作風の魅力に溢れています。



<8100830500571>

D07

南部鉄器(岩手県)

鉄瓶 葡萄紋

129,600 円

直径 15cm 高さ 23.5cm

南部鉄器がブームです。内側を珐瑯仕上げにしたカラフルな急須はお洒落なパリジェンヌ達を虜にしたとか。喫茶の国、中国では本格的な鉄瓶が人気。青山スクエアも鉄瓶めざして遠来のお客様が増えました。この端正な南部型の鉄瓶は女性職人の作。繊細な葡萄紋様、お決まりの栗鼠は蓋のつまみにあしらわれ、愉しくも古典的な作品です。



<>

D08

伊万里・有田焼(佐賀県)

青海波色絵紅葉香炉

116,640 円

直径 10cm 高さ 13.5cm

秘窯の里、大川内山は鍋島藩の藩窯として代々継承されてきました。大秀窯当主大串秀則氏は轆轤の名人と謳われた故中村清六氏に師事、香炉や花器を中心に端正な作品を制作しています。この香炉は古典的な形状に鍋島文様の色絵紅葉が鮮やかな品格に満ちた作品です。



<>

D09

伊万里・有田焼(佐賀県)

色絵野ばら灯ろう

116,640 円

直径 12.5cm 高さ 35.5cm

やや青味を帯びた素地に、色鍋島の伝統的な色釉である赤、緑、黄釉を用いてモダンな野ばら模様がびっしりと描かれています。台座には一糸乱れぬ櫛高台。典型的な色鍋島の意匠を現代作品に投影させた照明器具が優美な空間を演出します。藩窯の地、大川内山の麓で作陶する大秀窯大串秀則氏の作品。



<>

D10

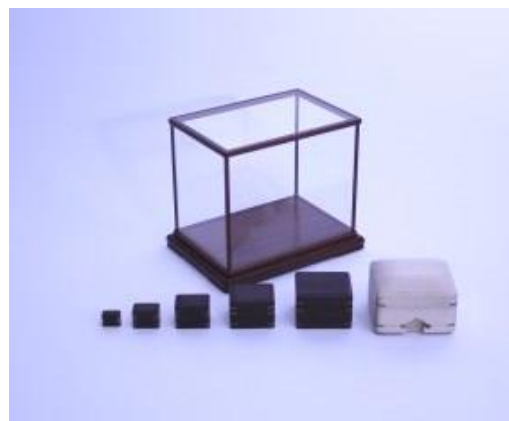
大阪唐木指物(大阪府)

入れ子小篋 ケース付

113,400 円

幅 13cm 奥行 9cm 高さ 12cm

寸分の隙もなくおさまる五個の入れ子、もっとも小さい箱は高さ 1 cm に満たない紫檀の箱。指物技術の粋を尽くすという執念に衝き動かされて生まれたとしか言いようのない逸品です。何か役に立つわけでもなく、ただその技に感嘆して手元に置きたいという人に向けて作られた木原由貴良氏によるいささか挑戦的な作品。



<>

D11

山中漆器(石川県)

ネックレス

108,000 円

横 6cm 縦 3.4cm 厚み 2.2cm 長さ 43 cm

山中漆器はその精緻なろくろ技術に脚光を浴びていますが、山中高蒔絵といわれる美しい蒔絵も高い評価を得ています。山中の地で、5 代にわたって継承されてきた香仙工房の制作理念は「伝統的な技術を受け継ぎつつ現代にリデザインした普段着の漆・蒔絵ものの提案」。ツゲの木に漆を塗り重ねた漆黒のトップに華麗な蒔絵を施し、オニキスの鎖をつけたシックなペンダントです。



<8100843000112>

D12

備前焼(岡山県)

酒呑

108,000 円

直径 6cm 高さ 7 cm

左党諸氏垂涎の備前焼のぐい呑。当代の人間国宝伊勢崎淳氏の作品です。「炎の偶然性と陶芸家の意図。双方が合致して初めて満足のいく備前焼が誕生する」と語る氏の魅力の根元はそのモダンな造形感覚にあります。伝統的な茶器の他、大胆なフォルムによる斬新な作品も世界的な注目を浴びています。



<8100832000963>

108,000 円

幅 33cm 奥行 4cm 高さ 21cm

高岡は小さな文具から梵鐘に至るまであらゆる銅器を手掛ける産地ですが、日展や現代工芸展で活躍する蝋型鑄造の名手、名取川雅司氏の詩情にあふれた世界。ちょっと哀しげな表情の驢馬が荷車に星空を担って曳いているというメルヘンの作品です。通常の古典的な置物などとは違った魅力を醸し出しています。



ご注文用紙

◎ご依頼主様

お名前	様
ご住所	
電話番号	
F A X	
E -mail	

[illegible]



大切にしたい日本の手しごと、伝統的工芸品。

伝統工芸 青山スクエア

JAPAN TRADITIONAL CRAFTS AOYAMA SQUARE

〒107-0052 東京都港区赤坂 8-1-22 赤坂王子ビル

TEL: 03-5785-1301 <http://kougeihin.jp>

開館時間 11:00 ~ 19:00 (最終日は17:00まで)